



横田さんご夫妻のもどかしい胸のうちの垣間  
見ることができる講演でした

今年の鳥羽市人権講演会は、  
拉致被害者家族連絡会前代表  
の横田滋さん、早紀江さんご  
夫妻を招いて行われました。  
500人を超えるかたがた  
が詰め掛けてくださり、主催  
者側としては会場が小さいの  
ではないかと心配していただ  
けに、想像どおりの大にぎわ  
いとなりました。

木田市長の

ど〜んと

真珠のように輝く  
まちづくりのために

コミュニケーション

vol.43

拉致被害者を助けたい

伊勢市、志摩市そして津市  
などからも参加者があり、さ  
すがに横田ご夫妻の知名度の  
高さに驚かされました。

最初に滋さんのお話があり  
ました。昭和52年に長女めぐ  
みさんが行方不明になってか  
ら現在に至るまでの多くの出  
来事、関係された人たちがそ  
の役職などを克明に覚えてお  
られ、その優秀さとまじめな  
性格がにじみ出た講演でした。

世論の力で国を動かしてほ  
しいという思いが強く出てい  
て、もどかしい胸の内を垣間  
見ることができたように思い  
ました。

早紀江さんのお話は、娘へ  
の愛情がもっと端的に出てい  
ました。この事件を再現した  
DVDのアニメを自分は見  
ることができない。めぐみさん

の苦しみ、悲しみを思うと耐  
えられないという内容でした。  
彼女の思いの中に、国や国  
会議員はなぜもっと親身に  
なって対応していただけない  
のかということがあり、一部  
の国会議員を除いて、多くの  
議員が他人事のようにしてい  
るといふ大きな不満を表明し  
ました。

国民がこんな目に遭ってい  
るのに、なぜ国はどうするこ  
ともできないのだろうかとい  
うもどかしさが伝わってきま  
した。

そのような思いの中で、早  
紀江さんはえらいなあと感じ  
たのは、「めぐみを返してほし  
い」ということと同時に、しい  
たげられている多くの北朝鮮  
の人たちを助けてあげてほし  
い」と発言したことでした。

世間の人たちが自分たちを  
助けてくれないと感じている  
中で、北朝鮮の苦難の人たち  
のことを思いやることができ  
る早紀江さんのいちずな望み  
を、どうにかしてかなえてあ  
げたいと感じたのは、わたし  
一人ではなく、会場に詰め掛  
けたすべての人の思いであつ  
たのではないのでしょうか。

人権文化の  
花を咲かせよう

Vol.83

### 春の来ない冬はない

わたしたちの住んでいる地  
球はあまりにも大きすぎて、  
とても球体であることを実感  
することはできません。  
しかし、球形をしているこ  
とは、正しい知識として知っ  
ています。

今回は、巨視的に地球を眺  
めてみましょう。

地球をサッカーボールの大  
きさに縮めると、2・6キロ  
メートルほど離れた位置に直  
径24メートルの太陽が輝いて  
います。

そこからは約20億本のエネ  
ルギーの矢が放たれていて、

そのうちのたった1本の矢が  
わたしたちの住む地球に当た  
り、エネルギー源となってい  
るといふのです。

そして、地球の年平均気温  
は約15℃です。

太陽のエネルギーや大き  
さ、地球との位置関係や月を  
含むほかの天体との規則的な  
運動は、46億年前という気の  
遠くなるような昔に太陽と地  
球が親子関係を築いて以来、  
さまざまな出来事を経て、よ  
うやく今日のような環境とし  
て落ち着きました。

サッカーボールの地球を指  
先で触ってみると、その表面  
の多くが海水で覆われ、敏感  
なかたであれば、最大3分の  
1ミリメートルほどの凹凸を  
感じるができます。

わたしたちをはじめ大多数  
の生物は、その表面の「水と  
大気と大地の接するところ」  
で暮らしています。

今、地球は人為的な営みに  
よって地球温暖化というピン  
チに立たされています。未来  
にわたって「春の来ない冬は  
ない」と断言できる環境を取  
り戻しましょう。